

# Inferentialism Workshop 参加報告

相関基礎科学系修士課程二年 鈴木佑京

11/25・26 にスコットランドのセント・アンドリュース大学において推論主義ワークショップ Inferentialism Workshop が開催された。筆者は国際研究集会渡航助成制度の支援を受け、同ワークショップに発表者として参加した。

同ワークショップは、言語の意味を推論規則によって捉える「推論主義」と呼ばれる哲学的・論理的プログラムをテーマとしたものである。参加者は約 30~40 名程度でそれほど大きな規模ではなかったものの、Stephan Read、Greg Restall、Jaroslav Peregrin を始めとする当該分野の有名研究者が集っており、全 16 件の発表が行われた。

筆者は 11/24 にエディンバラ空港に到着し、共同研究者の五十嵐涼介氏と合流、セント・アンドリュース市に向かい、同市のホテルに三泊してワークショップに出席した。

筆者の発表は 11/25 に配置されており、“Bilateralism and Falsificationism”（双側面説と反証主義）というタイトルで行った。これは、Dummett によって提案された証明論的意味論という推論主義的な理論に関する発表である。Dummett の証明論的意味論は当初直観主義論理のみを対象としていたが、これに「双側面説」及び「反証主義」という新しい理論的前提を加える事によって、古典論理も扱えるように理論の拡張を行おうという趣旨の内容であった。

発表後はフロアから活発な質問を受け、また休憩時間にも議論が続いた。論理的バックグラウンドを持つ研究者と哲学的バックグラウンドを持つ研究者の双方が出席していたので、多様な視点から有益なコメントをもらうことができた。さらに、五十嵐涼介氏が私の理論を別の問題意識に応用した発表を行ったため、五十嵐氏の発表後のディスカッションでも私の発表が話題に登り、興味深い議論を行うことが出来た。

ワークショップ全体の印象としては、推論主義というプログラムの多様性を感じた。私や五十嵐氏、Read などは主に証明論的意味論に関する発表を行ったが、Restall の双側面説や、Brandom の表現主義など、「推論主義」という旗印の元に括りうる多様な研究プログラムに基づく発表が行われており、それぞれのプログラムの間の関係に関して考える機会になった。

